令和5年度

環境学習出前授業ご案内
（小・中学生）

小学校・中学校の授業などで環境教育の
普及活動を進めるためにご活用ください

認定特定非営利活動法人　えどがわエコセンター

運営：環境教育・人材育成委員会

環境教育等プログラム

○はじめに

認定特定非営利活動法人えどがわエコセンターでは、区民・学校・事業者・行政が連携・協働して、地球温暖化、資源循環、自然共生など私たちが直面する様々な環境問題に皆さんとともに日々取り組んでいます。

本冊子は、小学校・中学校の総合的な学習の時間や生活科、理科等の時間に活用していただく「環境教育プログラム」集です。

○申込み方法／実施までの流れ

①相談・受付

・不明点などございましたらまずは、エコセンターまでご相談ください。

・既に申込内容が決まっている場合は最終ページの「**環境学習出前授業　希望調査票**」をご記入の上、FAX にてお申込みください。

・エコセンターで講師と日程調整した後、実施日についてご連絡いたします。

②打ち合わせ

当日の具体的な内容について事前打ち合わせを行います。

③実施

④事後アンケート提出

○経　費

講師の謝金や交通費、材料費等、原則として無料

○お申込み時にご注意いただきたいこと

① 実施日・事前打ち合わせ日の候補日時を３つ程度あげてください。

② 講師の日程調整があるためなるべくお早めの申込みをお願いします。

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業の中止・変更が生じる場合がございますので、予めご了承ください。

○申込み・問い合わせ先

認定特定非営利活動法人 えどがわエコセンター
〒134-0091　江戸川区船堀 4-1-1　タワーホール船堀３階
ＴＥＬ：03-5659-1651　ＦＡＸ：03-5659-1677
e-mail：edogawa-ecocenter7@bz04.plala.or.jp（担当：長田（おさだ））

認定NPO法人 共育・協働の環境づくり
えどがわエコセンター

○環境教育（総合的な学習の時間等）プログラム

No.	分　類	名　　称	対　象		SDGs	頁
1	環境全般	**《新規》**地球の環境問題を知り、自分にできることをしよう	小学生	高学年		3
2	環境全般	地球の環境にやさしい生活を学ぶ　①		中学年		4
3	環境全般	地球の環境にやさしい生活を学ぶ　②		特別支援学級		5
4	環境全般	地球温暖化と私達の生活	中学生	全学年		6
5	環境全般	都市ガスが家に届くまで	小学生	４年生以上		7
			中学生	全学年		
6	環境全般	燃料電池ってなんだろう？ ～地球温暖化をふせぐために～	小学生	５・６年生		8
			中学生	全学年		
7	環境全般	環境によいことをしよう！！	小学生	１年生		9
8	環境全般	南極での生活からエコな生活について学ぶ	小学生	全学年		10
9	環境全般	南極から考える私達の生活	小学生	高学年		11
			中学生	全学年		
10	環境全般	環境にいい買い物をしよう！ サステナブル・ラベルってなに？	小学生	高学年		12
			中学生	全学年		
11	省エネ	省ｴﾈﾅﾋﾞを活用した「夏休みのエコ」	小学生	高学年		13
12	省エネ	人にも地球にも優しい 「みどりのカーテン」を育てよう		中・高学年		14
13	省エネ/節水 ごみの減量	はじめよう！エコ・クッキング	小学生	高学年		15
			中学生	全学年		
14	ごみの減量	リサイクルについて学ぶ	小学生	特別支援学級		16
15	ごみの減量	ごみを減らす方法を買うときから考えよう		高学年		17
16	ごみの減量	ごみと SDGs～あなたはどうやってごみを減らしますか？～		中・高学年		18
17	ごみの減量/自然	リサイクル木材で本棚をつくろう	小学生、中学生			19
18	自然	校庭の自然をみつけよう	小学生	１～３年生		20
19	自然	身近な生きものにふれてみよう　①		２・３年生		21
20	自然	身近な生きものにふれてみよう　②		中・高学年		22
21	自然	身近な生きものにふれてみよう　③		中・高学年		23
22	自然	荒川の生きもの調べ		中学年		24
23	自然	海洋教育～干潟の生きもの観察～	小学生、中学生			25
24	自然	**《新規》**季節の生きものを観察しよう	小学生	全学年		26
25	自然	骨ってすごいぞ！生きるための骨（コツ）を知ろう	小学生	中・高学年		27
			中学生	全学年		

※対象や内容の変更についてはご相談に応じますので、お問い合わせください。
※ＳＤＧｓのアイコンはプログラムに関連する目標を示すものであり、各目標について個別に解説するものではありません。

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 1

プログラム名		**《新規》**地球の環境問題を知り、自分にできることをしよう		
特　徴		ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）の視点に立ち、問題解決に必要な能力・態度を養う環境教育を支援し、ＳＤＧＳの目標達成につなげます。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	地球温暖化問題の現状を学習することで、地球環境の大切さを理解し、学校や日常生活での環境問題について取り組む課題を主体的に友達と協力して調べ、自分たちができることを考え、まとめ、発表し、地球環境に配慮した行動を実践していくことを身につけていきます。		
	対象者	小学生（高学年）		
	対象人数	ークラス（３０名位）		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分×５～９回（１クラスずつ実施）＊回数は学校側との役割分担により決めます		
	学習手順	**ステップ１：地球温暖化の問題って何だろう？（４５～９０分）** 動画・画像・クイズを通し、地球が暖かくなっていることの原因と二酸化炭素の関係を知り、地球温暖化を理解しテーマ決めにつなげる。 **ステップ２：テーマ（課題）を決める（４５分）** 地球温暖化防止について興味関心があるテーマを設定する。 **ステップ３：情報収集（４５～９０分）** 設定テーマに対しどんな順番で調べるか計画して必要な情報を収集する。 **ステップ４：整理・分析（４５～９０分）** 情報収集したことをＫＪ法使用してカード化された問題をグループ化して問題解決の道筋を明らかにする。 **ステップ５：まとめ・表現（４５～９０分）** グループごとにまとめたことを模造紙、ＰＰ等にまとめ発表する。		

団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

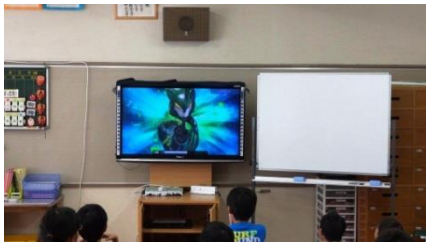
環境教育プログラム（総合学習等）　No. 2

プログラム名		地球の環境にやさしい生活を学ぶ　①		
特　徴		“地球温暖化について学ぶ”と“宝探し”、“パズル”を組み合わせ楽しみながら学ぶ参加体験型学習です。教室、体育館など広い場所であればできます。使用する「Ｅ☆カプセル」、「ことばカード」は環境省からの提供ツールです。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・子どもたちに、環境に関する知識の気づきを与え、日常生活での取り組みが、環境に対して大きな影響を与えることに関心を持ってもらいます ・みんなで力を合わせることで、環境にやさしい社会を作ることができるというイメージを伝え日常生活での取り組みを即します		
	対象者	小学生（中学年）		
	対象人数	３０～１００名		
	学習場所	教室、体育館		
	学習時間	４５分×２		
	学習手順	＊１時限目（４５分） ①映像を使い地球環境の現状と温暖化について学びます ②ポスター、スライドを見せながら、どのような点が環境にやさしくないかを問いかけ環境にやさしくない社会とはどんなことかを考え学びます ＊２時限目（４５分） ③環境にやさしくない社会をよくするために「Ｅ☆カプセル」を組立て完成したパズルに描かれているイラストは、何を表しているか考え、該当する「ことばカード」を選び確認してその意味を理解します ④完成したパズル全体を組立て出来上がった絵柄を見せどのような点がよいのか、何が変わったのか等を問いかけ環境にやさしい社会とはどんなことかを理解します ⑤一人ひとりの力を合わせることで「環境にやさしい社会（家庭）をつくることができる」ということを伝えます		

団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 3

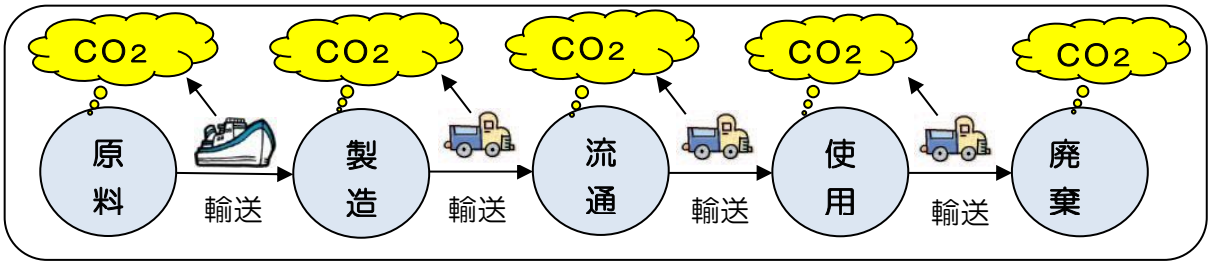
プログラム名		地球の環境にやさしい生活を学ぶ　②		
特　徴		ＤＶＤ観賞とパズル組み立てを楽しみながら“日常生活で環境にやさしいことは何かを学ぶ参加体験型学習です。使用する「Ｅ☆カプセル」は環境省からの提供ツールです。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・子どもたちに、日常生活で環境にやさしいことは何かを学んでもらいます。 ・パズルを組み立てる楽しみを味わってもらいます。		
	対象者	小学生（特別支援学級）		
	対象人数	２０～３０名		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分×１（１時限目のみ）又は４５分×２（１、２時限目）		
	学習手順	＊１時間目（４５分） ①ＤＶＤ観賞（１）　ドラマパート 地球の環境を守るため近未来からやってきた環境超人エコガインダーが活躍するドラマを鑑賞し日常生活の中で環境にいいことを考えてもらいます ②ＤＶＤ観賞（２）　クイズパート ドラマパート鑑賞後にエコガインダーが質問する問題に答えます		
		＊２時間目（４５分） ③ポスター、スライド等を見せながら環境にやさしくない生活とはどんなことかを考えます ④環境にやさしくない生活をよくするためにカプセル探しをした後に「Ｅ☆カプセル」を組み立てます ⑤完成したパズル全体を組立て出来上がった絵柄を見せどのような点がよいのか、何が変わったのか等を問いかけ環境にやさしい生活とはどんなことかを理解します ⑥「今日から環境によいことをしましょう」と伝えます		



団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 4

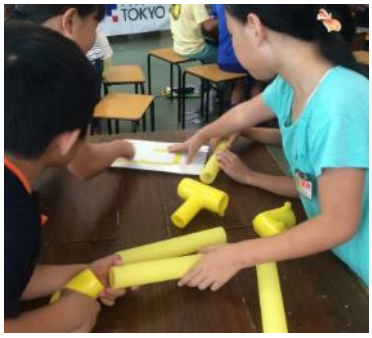
プログラム名		地球温暖化と私達の生活		
特　徴		温暖化の主な原因である二酸化炭素は、製品が使用される時点だけではなく、モノの一生（ライフサイクル）、つまりモノを作るとき、運ぶ時、リサイクルするときも出ています。その全ての環境負荷を考える環境教育です。		
プログラム概要	分類	1．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	3．ごみ減量・リサイクル
		4．自然	⑤．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	講義とグループワークで学びます ・化石燃料による二酸化炭素（CO_2）が原因で地球温暖化が進んでいることを知る。 ・普段の日常生活で、目に見えないところでもCO_2が出ていることに気づきを与える。 ・温暖化に対して日常で何ができるか、ライフスタイルについて考えさせるきっかけとする。		
	対象者	中学生		
	対象人数	３０～１００名		
	学習場所	教室、体育館		
	学習時間	５０分×２		
	学習手順	＊１時間目（５０分） ・地球温暖化の今について映像や動画で学びます ・クイズで考えるCO_2 ・洗濯とタオルを題材にどこでどの程度CO_2が出ているか、それはどうしてかに気づきを与えます ＊２時間目（５０分） ・温暖化カードを使い、いろいろな“物の一生”とCO_2の関係についてカードで遊びながら学びます ※エネルギー消費「カード」に替えて、「ＰＣソフト」を使用する演習方法もあります		

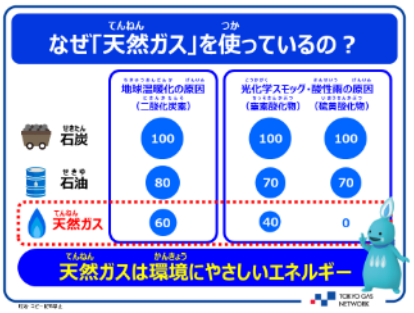


団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 5

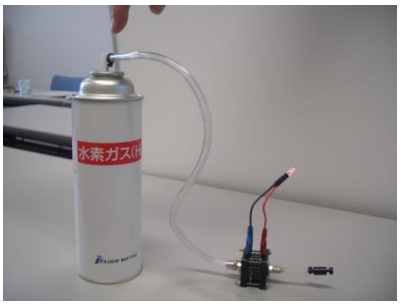
プログラム名		都市ガスが家に届くまで		
特　徴		都市ガスが届く道のりや、環境に優しく持続可能なエネルギーの重要性を、エネルギーのプロが解説します。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・エネルギーが運ばれてくる道のり（ライフライン）について学ぶとともに、ふだん何気なく使っているエネルギーの貴重さ、暮らしの中での重要性への気づきを促します。 ・エネルギーにとって環境性や将来にわたって使えることの重要性に気付かせます。		
	対象者	小学生（４年生～６年生）、中学生		
	対象人数	１クラスずつ実施　※クラブも可		
	学習場所	原則として理科室、家庭科室などガス栓が使える教室		
	学習時間	小学生：４５分×１　　中学生：５０分×１　※３校時目以降でお申し込みください		
	学習手順	＊１時限（４５分または５０分） パワーポイント、サンプル品（ガスバーナー、石油・石炭、ガスのにおいサンプル、ガス管、ガスメーター）を使って解説を進めます。 ①　エネルギーさがし（家の中、学校、街） ②　都市ガスってなんだろう（都市ガスは何から作られている？／ガスの環境性） ③　都市ガスが家に届くまで（ガス田～ＬＮＧタンカー～ＬＮＧ基地～ガス管～ガスメーター～家） ④　将来も使えるの？（シェールガス、メタンハイドレート）		
	備考	・実施日より、３ヵ月前からでのお申込みを、お願い致します ・お申し込み時に、実施候補日を３つお知らせください（３校時目以降） ・実施１か月前頃におうかがいして事前のお打合せをさせていただきます。 ・開始１時間前から準備作業のために会場を使わせていただきます。		

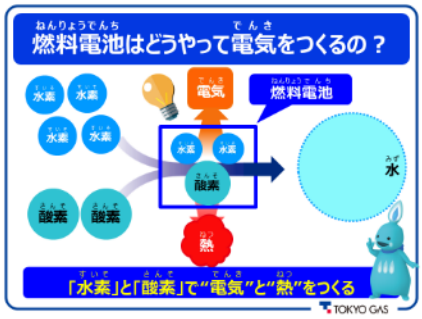




団体名	東京ガスネットワーク㈱学校教育情報センター	代表者名 小柳　嘉毅

プログラム名		燃料電池ってなんだろう？～地球温暖化をふせぐために～		
特　徴		地球温暖化を防ぎ、緩和できるようなエネルギーの作り方・使い方を燃料電池の発電実験をまじえて学びます。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・火力発電から発生する二酸化炭素が温暖化の一因となっていることに気付きます。 ・二酸化炭素を出さない発電方法である自然エネルギーの長所・短所を学びます。 ・温暖化対策の切り札の一つとされる燃料電池による発電実験を行い、実用に耐えうるものであることを理解します。		
	対象者	小学生（５・６年生）、中学生		
	対象人数	１クラスずつ実施（約４０名／クラス以内を目安）　※クラブも可		
	学習場所	理科室、ランチルーム、家庭科室など校時ごとの移動が発生しない教室		
	学習時間	小学生：４５分×１　　中学生：５０分×１　※３校時目以降でお申し込みください		
	学習手順	＊１時限（４５分または５０分） パワーポイント、実験キット（自然エネルギー、燃料電池）を使って解説を進めます ①　電気はどうやって作られている？ ②　地球温暖化が起きる仕組み ③　自然の力を利用する発電方法 ④　燃料電池の仕組み、燃料電池実験、燃料電池のこれから※実験キットは全員分用意いたします		
	備考	・実施日より、３ヵ月前からでのお申込みを、お願い致します ・お申し込み時に、実施候補日を３つお知らせください（３校時目以降） ・実施１か月前頃におうかがいして事前のお打合せをさせていただきます ・開始１時間前から準備作業のために会場を使わせていただきます		

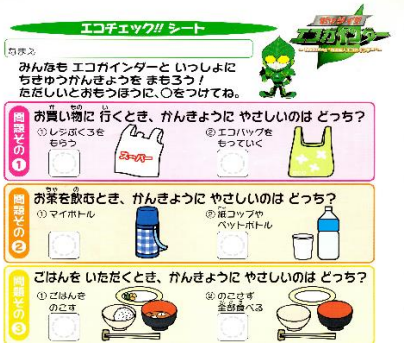




団体名	東京ガスネットワーク(株)学校教育情報センター	代表者名 小柳　嘉毅

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 7

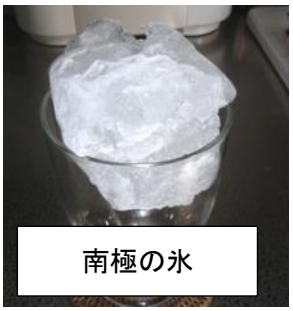
プログラム名	環境によいことをしよう！！			
特　徴	映像や体験を通し日常生活の中で環境によいことを学ぶ。			
	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・日常生活の中で環境に良いことはどんなことかを理解し実践につなげる。 ・体験を通じごみをきちんと分別する、使えるものは再利用することを学ぶ。		
	対象者	小学生（１年生）		
	対象人数	３０～８０名		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分		
	学習手順	＊前半（２５分） ＤＶＤを通して、節電、節水、ごみ減量等の問題に答え理解します。 ①　ＤＶＤ鑑賞　ドラマパート ・地球の環境を守るため近未来からやってきた環境超人エコガインダーが活躍するドラマを鑑賞し日常生活の中で環境にいいことを考えてもらいます。 ②　ＤＶＤ鑑賞②　クイズパート ・ドラマパート鑑賞後にエコガインダーが質問する問題に答えます。		
		＊後半（２０分） 使わなくなったペットボトルのリサイクル等を学ぶ ①　ペットボトルのリサイクル後の製品は何だろう？ ・リサイクルでできた様々な製品（服、ネクタイ、定規、ボールペン等）を五感で感じてもらう。 ②　ペットボトルの捨て方は？ ・実物を使い、捨て方を実際にやってもらい日常生活での行動を促す。		



団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 8

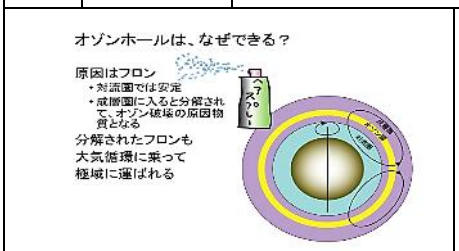
プログラム名		南極での生活からエコな生活について学ぶ		
特　徴		極寒の中で少人数の隊員で観測を継続するためには、可能な限り消費するエネルギーや水の量を減らすことが重要である。隊員が昭和基地で行っていることを知識と知り、一部体験しエコな生活について学ぶ。		
プログラム概要	分類	①. 節電・省エネ	②. 節水・雨水利用	③. ごみ減量・リサイクル
		④. 自然	⑤. 環境全般	⑥. 水・土・大気
	学習のねらい	南極観測を実施している南極では、北半球の日本では体験できないような自然現象を体験する。また、極寒の中で少人数の要員で観測を継続するためには、隊員がどのように消費するエネルギーや水の量を減らしているかについて、南極での体験を紹介し、日本での生活と対比することにより、日々の生活で必要な対応を学ぶ。		
	対象者	小学生		
	対象人数	小学校低学年　30～50 名、小学校高学年　３０～100 名		
	学習場所	教室、実験室、体育館		
	学習時間	低学年向け　３０分×２（1、２時限のみ）、高学年向け　45 分×２（1、２時限目） 学年全体あるいは複数学年を対象にした場合には、座学中心になる。		
	学習手順	（1 時限目） 南極での生活や国内との生活の違いを知るため、南極の自然の状況や観測の現状、得られた知識などの基礎的情報について紹介し、理解を深める。 （２時限目） １時限目の基礎的な情報を元に、南極の氷やビデオ、南極で使用している装備品の違いを理解するため、実際に装備品を着用し、扇風機の風を当て風をどう防いでいるかどうかなどを理解する。		

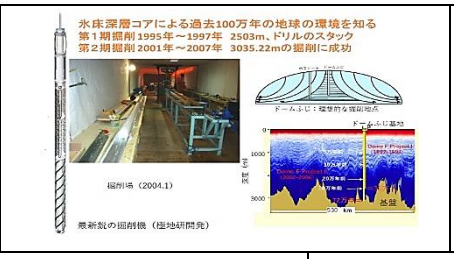


団体名	南極 OB 会	代表者名 岩坂（いわさか）　泰信（やすのぶ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. ９

プログラム名		南極から考える私達の生活		
特　徴		地球環境としての南極での生活や自然現象を通して、私達の身近な環境を考えていく。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	②．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	⑤．環境全般	⑥．水・土・大気
	学習のねらい	私達が暮らしている身近な環境は地球の中では北半球の温帯域に位置づけられる。ここは比較的穏やかな気候であり、また人間社会の複雑な関係の中で、私達の生活が地球環境とどのように関連しているかは普段、気が付かないことが多い。それを気づかせてくれるのが南極や北極の極地の環境である。とくに、南極での生活と自然現象を題材として、身近な私達の生活と地球環境は実は大きく関係していることを考えさせる。		
	対象者	小学生（高学年）、中学生		
	対象人数	30 ～１００名		
	学習場所	教室、実験室、体育館、野外、公民館等		
	学習時間	４５分x1（1 時限のみ）あるいは 45 分ｘ２（1、２時限目）		
	学習手順	南極を題材として、私達の身近な環境を考えていく場合、上に示された分類の１～6までのすべてに当てはまることが本プログラムの特徴でもある。それは観測隊が南極で生活していることにも関係している。南極の生活と自然環境は地球の中での生活と自然において最も基本的、あるいはシンプルなシステムを提供してくれる。このことが南極を教材とする所以である。		
		１時限目（45 分）私達の身近な環境で起こった災害を考える。 　東日本大地震、北海道胆振地方地震による津波、液状化から地震の仕組み等を学ぶ。単に自然現象としてだけではなく、省エネ、節電、節水をしなければならない理由を南極の生活から学ぶ。		
		２次限目（４５分）私達の身近な自然を地球規模で考える。 　私達が住んでいる日本の温帯性気候は熱帯から極地域に至るまで段階的に変化が起こっている気候の一つである。南極は極低温、強風、極夜、白夜に代表される諸現象から、日本の気候、気象を学ぶ。例えば、地震と大陸移動、冷媒としてのフロンガスとオゾンホール、二酸化炭素の増加と温暖化、地球の水の循環と南極氷床、生物分布と外来種。		





団体名	南極 OB 会	代表者名 岩坂（いわさか）　泰信（やすのぶ）

プログラム名		環境にいい買い物をしよう！サステナブル・ラベルってなに？		
特　徴		エシカル消費の目印ともなるサステナブル・ラベル（国際認証）を通して環境問題を学びます。		
プログラム概要	分類	1．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	3．ごみ減量・リサイクル
		4．自然	⑤．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	環境や社会に配慮した製品につくサステナブル・ラベルは、日常の買い物の中での選択の目安になるだけでなく、どのような問題があり、それを解決するために何か行われているのかを知るきっかけにもなります。身近なところから始められる環境への取り組みの一歩として、サステナブル・ラベルを学びます。		
	対象者	小学校高学年・中学生		
	対象人数	20～40 名		
	学習場所	教室		
	学習時間	45 分×2		
	学習手順	**1 時間目（45 分）自分たちで考える** サステナブル・ラベルってなに？ ① FSC や有機 JAS、国際フェアトレードラベルなどいくつかのラベルを紹介、名前や見た目からその意味を想像してみる ② そのラベルはどんなものについていそうか、見本で並べた製品の中から選んでみる ③ 発表 **2 時間目（45 分）専門家の話を聞いてみる** そもそもサステナブル・ラベルとは何か。様々なサステナブル・ラベルの意味や歴史などを紹介する。また私たちの日常の衣食住との繋がりを発見してもらう。 自分たちが毎日使うものを環境や社会に配慮したものを選ぶことで、未来への投票になることを知ってもらう。場合によっては実際に取り組んでいる企業の話も聞きます。 最後に自分達が「あったらいいな」と思うラベルの分野や製品などのアイデア等共有。		

団体名	一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会	代表者名 山口（やまぐち）　真奈美（まなみ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 11

プログラム名		省エネナビを活用した「夏休みのエコ」～部屋の電気を測って節電しよう～		
特　徴		夏休みに「省エネナビ」を使用して、測定したデータを基に節電に取組む課題を見出し、解決に向けて自分の生活をふりかえると共に、自分が出来る事を進んで実践する力を育みます。		
プログラム概要	分類	①．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	地球温暖化防止と省エネの大切さを理解した上で、夏休み等を利用して家庭で主に児童が使う家電の節電方法を考え、実行し、その効果を定量的に確認することで、環境意識が高まり節電行動につなげます。		
	対象者	小学生（高学年）		
	対象人数	３０～１００名		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分×３		
	学習手順	**導入：地球温暖化の影響と節電がその防止に必要なことを理解します。** **<u>ステップ１：グループワーク</u>** ①個人で節電方法を考えます ・自分が主に使っている家電の節電方法を考えます。 ②班で話し合います ・各人が書いた節電方法を発表し合い、お互いに意見交換してよい方法は取り入れて見直します。 ③各班の代表が発表します ・他の班の節電方法でよい方法を取り入れます。 **<u>ステップ２：省エネナビを使って自宅の家電を測定します</u>** ・夏休みに１カ月測定します。 **<u>ステップ３：グループワーク</u>** ①節電の取り組みをふりかえる ・「僕は・私はこうして節電します」と各人に夏休みに１カ月測定結果を見て「僕は・私はこうして節電できた」シートに記入し、節電の取り組み結果をふりかえります。 ②班で話し合い ・個々に発表し合い、お互いに感想を述べます。 ③各班の代表が発表し質疑応答します ・発表した内容に対する講師からのコメントをします。 ・各人がふりかえります。 省エネナビ		

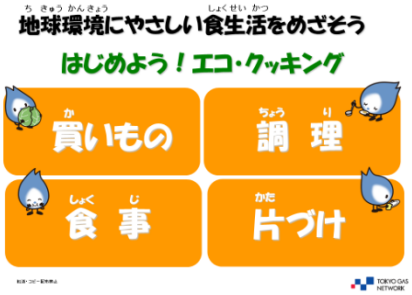
団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 12

プログラム名		人にも地球にも優しい「みどりのカーテン」を育てよう		
特　徴		みどりのカーテンの様々な効果を学び、カーテンづくりに取り組みます		
プログラム概要	分類	①．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	3．ごみ減量・リサイクル
		4．自然	⑤．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	映像･画像､体験やクイズを交えながら、地球温暖化の仕組みや SDGs への取組みなど、ひろく環境問題について知ると共に、栽培し始めたゴーヤが様々な効果を持つ「みどりのカーテン」になるために、どのような世話が必要なのかを理解し実践する。		
	対象者	小学生　中･高学年		
	対象人数	３５～９０名　（適宜対応）		
	学習場所	教室、多目的室、みどりのカーテン設置場所（花壇）		
	学習時間	１時限用（６０分）	２時限用（６０分×２日）	
	学習手引	＊前半（２０分） ・みどりのカーテンについて学ぶ みどりのカーテンと地球温暖化･SDGs ・みどりのカーテンを上手に作る方法 ゴーヤの苗を自分たちで植え、みどりのカーテンに育てていく準備を行う	＊１時限目（６０分） ・みどりのカーテンを上手に作る方法 ゴーヤの苗を自分たちで植え、みどりのカーテンに育てていく準備を行う ・ゴーヤが育っている環境を観察しよう （ネットの張方、水やり、除草）	
		＊後半（４０分） 屋外で体験学習 ・ゴーヤが育っていく環境を観察しよう ゴーヤの苗を植え、支柱を添える （ネットの張方、水やり） ・摘芯・誘引のやり方説明	＊２時限目（６０分） ・地球温暖化とはどういう事かな？ ・温室効果ガスはどうして増えるの？ ・地球温暖化が進むとどうなる？ 屋外で体験学習 ・ゴーヤが育っている環境を観察しよう （ネットの張、水やり、除草） ・摘芯のやり方説明　⇒　みんなで体験 ・誘引のやり方説明　⇒　みんなで体験	

団体名	えどがわエコセンター脱炭素社会づくり委員会	担当名 齋藤（さいとう）　智子（ともこ）

プログラム名		はじめよう！エコ・クッキング（①講義型　②実習付き型）		
特　徴		環境のことを考えながら、自分の色々な感覚を使って、食材選び～調理～食事～片づけを行うポイントを通して学びます。		
プログラム概要	分類	①．節電・省エネ	②．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	⑤．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・食を通してできる省エネ・省資源を学び、身につけます。 ・いろいろな感覚を使うことの大切さも学びます。		
	対象者	小学生（高学年）、中学生		
	対象人数	１クラスずつ実施		
	学習場所	家庭科室		
	学習時間	①小学生：４５分×１　　中学生：５０分×１ ②小学生：４５分×２　　中学生：５０分×２　※３校時目以降でお申し込みください		
	学習方法選択	授業の流れ ・食生活と地球環境の密接なかかわり ・買い物・調理・食事・後片付けのエコ・クッキングポイント ・①講義型）買い物・調理・食事・後片付けのポイントを映像含め、詳細に説明 ・②実習付き型）インストラクターによる調理デモ・調理実習・試食・まとめ ※調理実習時の食材は、学校でご用意ください 調理実習メニュー　小学生：カラフル野菜スープ　中学生：ツナ入りナポリタン		
	備考	・実施日より、３ヵ月前からでのお申込みを、お願い致します。 ・お申し込み時に、実施候補日を３つお知らせください（３校時目以降）。 ・実施１か月前頃におうかがいして事前のお打合せをさせていただきます。 ・開始１時間前から準備作業のために会場を使わせていただきます。		



団体名	東京ガスネットワーク(株)学校教育情報センター	代表者名 小柳　嘉毅

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 14

プログラム名		リサイクルについて学ぶ		
特　徴		ＤＶＤ観賞とエコ工作を楽しみながら“ペットボトル”リサイクルを学びます。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	・ＤＶＤ観賞し、日常生活で環境にやさしいことは何かを学びます。 ・エコ工作を楽しみながらペットボトルのリサイクルを学びます。		
	対象者	小学生（特別支援学級）		
	対象人数	２０～３０名		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分×２（１、２時限目）		
	学習手順	＊１時間目（４５分） ①ＤＶＤ観賞（１）　ドラマパート 地球の環境を守るため近未来からやってきた環境超人エコガインダーが活躍するドラマを鑑賞し日常生活の中で環境にいいことを考えてもらいます。 ③　ＤＶＤ観賞（２）　クイズパート ドラマパート鑑賞後にエコガインダーが質問する問題に答えます。 ＊２時間目（４５分） ①エコ工作と作った製品で楽しみます（以下の中から選択となります）。 ・ペットボトル風車　・ＣＤコマ　・メリーゴーランド ②工作で使用するペットボトルの捨て方やリサイクル製品を見せながらリサイクルの話をします。 ①　「今日から環境によいことをしましょう」と伝えます。		

団体名	イノシシ倶楽部	代表者名 大和地（やまとじ）　弘一（ひろかず）

<table>
<tr><td colspan="2">プログラム名</td><td colspan="3">ごみを減らす方法を買うときから考えよう</td></tr>
<tr><td colspan="2">特　徴</td><td colspan="3">児童が好きなお菓子などを対象に、グループワークを中心とした体験学習です。食べ終わるとごみになるものは何か？包装の役割は何か？を話し合いそれによって、買い物の時には、まず必要かどうかを考えて、できるだけ環境にやさしいものを選ぶことに気づきを与える環境教育です。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">プログラム概要</td><td rowspan="2">分類</td><td>1．節電・省エネ</td><td>2．節水・雨水利用</td><td>(3) ごみ減量・リサイクル</td></tr>
<tr><td>4．自然</td><td>5．環境全般</td><td>6．水・土・大気</td></tr>
<tr><td>学習のねらい</td><td colspan="3">容器包装ごみを減らす方法を「捨てる」時ではなく「買う」時から考え買い物の時にはまず必要かどうかを考え、できるだけ環境負荷ができるだけ小さい製品を購入することに気づくことを目指します</td></tr>
<tr><td>対象者</td><td colspan="3">小学生（高学年）</td></tr>
<tr><td>対象人数</td><td colspan="3">３０名程度</td></tr>
<tr><td>学習場所</td><td colspan="3">教室</td></tr>
<tr><td>学習時間</td><td colspan="3">４５分×２</td></tr>
<tr><td>学習手順</td><td colspan="3">導入：講座のねらい「ごみ」を減らす方法を買うときから考えよう
ステップ１：食べ終わると「ごみ」になるものはいくつある？
容器包装が異なる品物（３種類）のうち、各グループで１種類の品物を担当します。グループ内で品物の実物を見て、中身を食べ終わるとごみになるものはいくつあるのかを話し合い、数えます。
ステップ２：「ごみ」になるものは、いるもの？いらないもの？
・ステップ１であげられた「ごみ」は、買った時に必要であったか（ごみになる前の役割は何か）考えます。
・グループ内でフリップ「いるもの？いらないもの？」の該当欄に一人ずつ投票します。「いる」または「いらない」と思った理由を話し合います。
・各グループで話し合った結果を発表し、全体で共有します。
・各グループの発表内容を下記の視点で整理します。
ステップ３：買う時から考えるグリーン購入
・容器包装が少ない品物の事例（大人が選んだものや世界の取り組み）を紹介します。
・ごみを減らすには作る量を減らす・長く使う（2R：Reduce、Reuse）、どうしても不要な時にはリサイクルできると良いことを説明します。
・買い物の時に環境を考えて品物を選ぶと、選ばれた品物が世の中に広がり、品物の作り方・売り方（社会）を変える力になること（グリーン購入）を説明します。
・復習クイズを行い、自分ができることは何かを確認します。</td></tr>
</table>

団体名	資源と環境の教育を考える会 「エコが見える学校」	代表者名 高岡（たかおか）　由紀子（ゆきこ）

プログラム名		ごみと SDGs～あなたはどうやってごみを減らしますか？～		
特　徴		私たちは毎日１kgのごみを出しています。どうやってごみを減らすか、減らすことでどんな未来の快適な暮らしの SDGs が達成できるのか、グループワークを中心とした体験学習です。グループごとに１つのごみについて、ごみになる理由を見つけ、ごみにしない工夫を考える。ごみにしないことでどんな SDGs が達成できるかを導き出す。時間があったら風呂敷包み体験を実施する。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		４．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	ごみの減らし方にもいろいろとあることが分かり、それに応じて快適な暮らしにつながる SDGs の達成に役に立つことに気づく。すなわち、ごみを減らすことだけでもいろいろな SDGs を達成できることが分かる。		
	対象者	小学生（中・高学年）		
	対象人数	ークラス（３０名位）×クラス数		
	学習場所	教室		
	学習時間	４５分×２　ークラスずつ実施		
	学習手順	**導入：日本人１人が１日に出すごみの量ってどのくらいか？** 1kg のごみってどのくらい？秤で量ってみる（食べ残し、ペットボトル、牛乳パック、レジふくろ、こども服など） **ステップ１：ごみになる理由は？ごみとしないためには？** ・５班に分かれて各班１つのごみについて、ごみになる理由とごみにしないためには？をポストイットに書き、模造紙に貼りだす。 **ステップ２：SDGs って何？** ・快適な暮らし、社会を作るための目標です。 ごみ問題に関係する９つの SDGs を調べましょう。 **ステップ３：ごみが減ったらどんな SDGs の達成につながるかを考えます** ・各班のごみについて考え模造紙にSDGsシールを貼り、発表する。 **（ステップ４：ふろしき包みを体験しよう。）** ・究極のごみ減らしの方法のひとつとしてふろしき包みを体験する。 **ステップ５：ごみを減らすことでどんな良いことがあるか？あなたは何をやるか？** ・班毎に話し合い、発表して、クラス全員の共有とする。		

団体名	公益財団法人日本環境協会 こども環境相談室	代表者名 大西（おおにし）　亮真（あきなお）

プログラム名		リサイクル木材で本棚をつくろう		
特　徴		「木のリサイクル」を日本全国に広める活動をしている全国木材資源リサイクル協会連合会の方を講師として迎え、原料及び燃料として廃木材がリサイクルされる行程を学びながら、木材のリサイクルが地球環境保護に貢献していることを、本棚作りを通して体験してもらう。		
プログラム概要	分類	1．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	③．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	5．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	使われなくなった木は、紙や板や発電燃料などに生まれ変わります。その仕組を学び、リサイクル木材と間伐材の用途や違いを理解してもらう。またリサイクル木材での本棚づくりを通し、実際に触れることで木材の性質や特徴を学び、木のリサイクルについて考えるきかっけを提供したい。		
	対象者	小学生、中学生		
	対象人数	１回につき、１０名以内		
	学習場所	教室		
	学習時間	１２０分		
	学習手順	**導入：木のリサイクルのお話し** **ステップ１：木のリサイクルを学びます** ①　木材リサイクルについて、動画またはパワーポイントで学ぶ。 木でつくられるもの、使う量、捨てる量、リサイクルの方法について説明し、捨てられた木が、原料及び燃料に活用される流れを学ぶ。木材資源のリサイクルが CO2 削減や地球環境保護、日本のエネルギー自給へ貢献していることを理解してもらい、高学年以上にはバイオマスとしての木材利用と震災廃木材の活用についても考えてもらいたい。 ②　①と同時進行で、原料チップ、燃料チップ、リサイクルボードの展示と、高学年には発電用ボイラーと木質バイオマスの説明も行う。 **ステップ２：本棚づくり** ①　あらかじめ組立可能にしてあるリサイクルボードと、間伐材プレートを比較し、両者の違いを実感してもらう。 ②　アクリル絵具を使用し、リサイクルボードや間伐材プレートに絵付けし、組立てる。		
団体名		認定特定非営利活動法人　全国木材資源リサイクル協会連合会		
		専務理事　原（はら）　信男（のぶお）	事務局　渡辺（わたなべ）　靖子（やすこ）	

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 18

プログラム名		校庭の自然を見つけよう		
特　徴		普段、遊んでいる校庭でも、五感を使って自然を感じたり、生きものに出会ったりして自然に親しむことができる環境学習です。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	① 水とみどり豊かな江戸川区には、身近に自然を感じることのできる場所がたくさんあります。このプログラムでは、校庭の自然空間を利用して身近な動植物とふれあい、都市における生物多様性の大切さを体感します。 ② 発見した生きものをビンゴカードに書き込み、ゲームを楽しみながら、自然への関心を深めます。		
	対象者	小学生（１～３年生）		
	対象人数	６０名		
	学習場所	校庭		
	学習時間	４５分×２		
	学習手順	・校庭の自然を、五感を使ってさがしてみようと呼びかけます。 目に見えるもの（色、かたち・・・）、さわって感じること（すべすべ、ごつごつ・・・）、肌で感じること（風の冷たさや暖かさ・・・）、聞こえるもの（鳥の鳴き声・・・）、においなど具体的に話をします（２０分）。 ・校庭で自然さがしをします（５０分）。 ＊ワークシートを用意して、チェックしたり、記入したりできるようにする（５０分）。 ・さがしたものをビンゴカード（９マス）に書きます。 ・カードに書いたものを発表し、ビンゴゲームを楽しみます。		

団体名	えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会	担当者名 中嶋（なかじま）　美南子（みなこ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 19

プログラム名		身近な生きものにふれてみよう　①		
特　徴		身近な植物や昆虫、水中生物を、近くの親水公園で観察したり、捕まえたりする体験を通し、自然に興味や関心をもつ環境学習です。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	① 水とみどり豊かな江戸川区には、身近に自然を感じることのできる場所がたくさんあります。このプログラムでは、公園や緑道、河川など、校外の自然空間を利用して身近な動植物とふれあい、都市における生物多様性の大切さを体感します。 ② 捕まえた生きものを教室で飼育し、生きものとふれあう活動につなげます。		
	対象者	小学生（２・３年生）		
	対象人数	６０名		
	学習場所	区内親水公園、親水緑道、親水河川、都立臨海公園		
	学習時間	４５分×２		
	学習手順	・学校の近くの公園、緑道、親水河川には、どんな生きものがいるか、普段の生活で見たり、触れたりしていることから、予想を話し合います（２０分）。 ・パネルを用意しておき、児童からでた意見をパネルで確認します。 ・現地に出かけ、生きものさがしを楽しみます。捕まえた生きものは水槽に入れ、教室に持って帰り（移動含め　５０分）、後で元の場所に戻します。 ・見つけた生きものについて発表し、予想したパネルの写真の生きものがいたかどうかみんなで確認します。シールなどを使って、多い少ないをあらわします（20 分）。		

団体名	えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会	担当者名 中嶋（なかじま）　美南子（みなこ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 20

プログラム名		身近な生きものにふれてみよう　②　生きものさがし（校内編）		
特　徴		身近な植物や昆虫、水中や土壌の生物等を通じて生息環境とのつながりを学ぶ環境学習プログラムです。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	ねらい	①　校庭やビオトープなどにすむ動物や植物を取り上げ、生態・生息環境を調べることで身近な自然への理解を深めます。 ②　ふだん何気なく見ている身のまわりにさまざまな生物が隠れ住んでいることを発見し、多様な生物とのつきあい方を感じ取ります。 ③　じっくり観察することで、自然の神秘、いのちの大切さを体感します。		
	対象者	小学生（中・高学年）　　＊低学年については別途相談		
	対象人数	５０名		
	学習場所	区内自然フィールド、都立臨海公園、校庭、校内ビオトープ		
	学習時間	４５分×２		
	学習手順	利用するフィールドによって手順は異なりますので、担当の先生と相談しながら進めていきます。		
	備考	・できれば春～秋の期間がのぞましい		

団体名	えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会	担当者名 中嶋（なかじま）　美南子（みなこ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 21

プログラム名		身近な生きものにふれてみよう　③　生きものさがし（校外編）		
特　徴		身近な植物や昆虫、水中生物等を通じて生息環境とのつながりを学ぶ環境学習プログラムです。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	ねらい	①水とみどり豊かな江戸川区には、身近に自然を感じることのできる場所がたくさんあります。このプログラムでは、公園や緑道、河川など、校外の自然空間を利用して身近な動植物とふれあい、都市における生物多様性の大切さを体感します。 ②外来生物や貴重種などについても調べたりすることで、都市の生物環境が現在直面している問題を感じ取ります。 ③人々の暮らしに利用されている動植物にも触れ、自然の上手な利用の仕方を考えます。		
	対象者	小学生（中・高学年）　　＊低学年については別途相談		
	対象人数	50 名		
	学習場所	区内自然フィールド、学校の周囲や校庭、区内河川敷（江戸川・荒川）		
	学習時間	４５分×２		
	学習手順	利用するフィールドによって手順は異なりますので、担当の先生と相談しながら進めていきます。		
	備考	・できれば春～秋の期間がのぞましい ・現地集合現地解散		

団体名	えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会	担当者名 中嶋（なかじま）　美南子（みなこ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 22

プログラム名		荒川の生き物調べ		
特　徴		荒川に生息するカニや魚と触れ合い、生物のつながりが水の浄化にも役立っていることを学びます。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	ねらい	身近な荒川の自然への関心を高めるとともに、川で安全に活動するための体験を知り、食物連鎖や生物多様性の理解を深めるきっかけを作ります。		
	対象者	小学生（中学年）		
	対象人数	５０名程度まで		
	学習場所	下平井水辺の楽校（荒川河川敷　ＪＲ総武線下流平井側）		
	学習時間	２時間程度		
	学習手順	・はじめの会　15 分　講師あいさつ、学習の流れ、安全注意 ・生物探し　30 分～ ・生物観察　20 分～ 生物を観察、ワークシートにスケッチ等 ・生物解説　15 分～ ・おわりの会　10 分 ※主な生物：魚類、カニ類、貝類、昆虫、植物、ゴカイなど ※できる限り保護者サポーターに見守りをお願い致します		
	備考	・実施時期は５～８月頃 ・現地集合現地解散		

団体名	下平井水辺の楽校（がっこう）	代表者名 中嶋（なかじま）　美南子（みなこ）

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 23

プログラム名		海洋教育～干潟の生きもの観察～		
特　徴		海の豊かな生物多様性について、葛西臨海公園の干潟での生きもの観察を通して学ぶ海洋教育プログラムです。		
プログラム概要	分類	1．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	3．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	5．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	葛西臨海公園の干潟に多くの生物が生息していることを実感し、生徒に干潟や東京湾の魅力を知ってもらうと同時に、江戸川区の自然の豊かさを再発見してもらいます。		
	対象者	小学生、中学生		
	対象人数	1 クラス 30 名程度		
	学習場所	葛西臨海公園鳥類園または葛西海浜公園西なぎさ		
	学習時間	1 時間～1 時間 30 分		
	学習手順	①はじめに 葛西臨海公園の歴史や成り立ち、干潟の特徴、干潟の生きものを探すコツを紹介します。 ②生きもの調査 グループに分かれて、ヨシ原と干潟に生息する生きものを探します。 ③生きもの観察 捕まえた生きものを全員で共有し、その生きものの名前や特徴を紹介します。 ④まとめ 観察した生きものを通して、生きものたちが生息する環境や、海の生物多様性について学びます。		

団体名	NPO 法人生態教育センター	代表者名 代表：小河原　孝生 担当：吉田　祐一

環境教育プログラム（総合学習等）　No. 24

プログラム名		**《新規》**季節の生きものを観察しよう		
特　徴		身近な動物や植物を探し、観察することで生きものたちの活動や環境との関わりについて学びます。		
プログラム概要	分類	1．節電・省エネ	2．節水・雨水利用	3．ごみ減量・リサイクル
		④ 自然	5．環境全般	6．水・土・大気
	学習のねらい	季節に応じた生きもの（昆虫、鳥類、植物）の観察を通じて、生きものたちの活動や見られる種類の違いについて知り、生きもの同士の関りや環境との関わりについて学ぶ。		
	対象者	小学生		
	対象人数	1 クラス 30 名程度		
	学習場所	葛西海浜公園、葛西海浜公園（校庭での実施希望の場合は要相談）		
	学習時間	1 クラス 1 時限から 2 時限		
	学習手順	①はじめに ・実施している季節は人や生きものたちにとって、どんな季節なのか仮説を考えます。 ②生きものの観察とふれあい ・生きものたちを探し、姿や行動などを観察しながら、その生態を学びます。 ・生きものにふれることで、形態を学びます。 ④ まとめ 観察した生きもの同士の繋がりや環境との関わりについて解説します。		

団体名	NPO 法人生態教育センター	代表者名 代表：小河原　孝生 担当：吉田　祐一

プログラム名		骨ってすごいぞ！生きるための骨（コツ）を知ろう		
特　徴		本物の動物の骨格標本を触って、動物の体のつくりについて学びます。		
プログラム概要	分類	１．節電・省エネ	２．節水・雨水利用	３．ごみ減量・リサイクル
		④．自然	５．環境全般	６．水・土・大気
	学習のねらい	哺乳類や鳥の骨標本を使用し、その動物の特徴や人との違いについて学びます。また、生きものの多様性についても学びます。		
	対象者	小学生（中・高学年）、中学生		
	対象人数	20～３０名		
	学習場所	教室、理科室		
	学習時間	１ クラス １ 時限から ２ 時限		
	学習手順	※１限目（４５分）生きものの骨を観察しよう ①骨ってなんだろう？骨の役割について学びます。 ②哺乳類の頭骨を観察。生活や食べ物の違いを観察します。 ③鳥類の骨を観察。哺乳類との違いや飛ぶための仕組みを観察します。 ※２限目（４５分）ホネホネパズルを組み立てよう ①腕や腰など、体の部位の骨を観察します。 ③　全身の骨をパズルのように正しい位置に骨を並べてみます。 並べた骨から何の生きものか、どんな暮らしをしていた生きものか観察します。		

団体名	NPO 法人生態教育センター	代表者名 代表：小河原　孝生 担当：吉田　祐一

認定NPO法人 共育・協働の環境づくり
えどがわエコセンター

環境学習出前授業　希望調査書

学　校　名				
校長先生氏名			副校長先生氏名	
担当の先生 氏　　名			連　絡　先	
総合的な学習の時間で、計画している環境プログラムの内容				
出前授業 依頼	希望プログラム 名　　称	No.		
	学　　年	年	クラス数	クラス
	人　　数	人		
	担任の先生 氏　　名			
	実施日時	第一希望	月　　日（　　）	
		第二希望	月　　日（　　）	
		第三希望	月　　日（　　）	
	打合せ日程	第一希望	月　　日（　　）　時　　分～	
		第二希望	月　　日（　　）　時　　分～	
		第三希望	月　　日（　　）　時　　分～	
	実施場所			
備　考				

【お問い合わせ】

認定特定非営利活動法人 えどがわエコセンター
〒134-0091　江戸川区 船堀 4-1-1　タワーホール船堀 ３階
ＴＥＬ：03-5659-1651（受付時間： 平日 9:00-17:30）
ＦＡＸ：03-5659-1677（受付時間：２４時間）
e-mail：edogawa-ecocenter7@bz04.plala.or.jp